【様式】

令和４年度　学校マネジメントシート

学校名（　三重県立松阪高等学校通信制　）

１　目指す姿

(1)目指す学校像		生徒一人ひとりの学びを支援し、生徒・保護者・地域から信頼される通信制高校を目指します。
(2)	育みたい児童生徒像	○校訓である「自主自律」の精神を持ち、自学自習を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる人。 ○校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、それぞれの立場で地域社会に貢献できる人。 ○心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人。
	ありたい教職員像	○面接指導（スクーリング）をはじめ、添削指導や日常の支援体制等を研究し、生徒の学習習慣の確立と学力向上に向けた取組を続ける教職員集団。 ○通信制課程には、さまざまな入学動機や学習歴を持つ生徒がいるほか、特別な教育的支援を必要とする生徒も少なくない。こうした生徒の現状やニーズを把握し、生徒一人ひとりの目標達成に向けた取組を続ける教職員集団。

２　現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 柔軟な学びのスタイルで、希望進路実現のための学力と卒業資格を修得することを期待している。 〈保護者〉 基礎学力を身につけ、希望進路を実現するとともに、通信制教育システムにより、自学自習をとおして生きる力を身につけることを期待している。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉情報の配信 〈中学校〉不登校経験者への学びの支援、基礎学力の定着と向上 〈高等学校〉学び直しの場、進路変更者への支援 〈教育委員会〉生涯学習への支援、学びのセーフティネット対策、定通連携	〈家庭〉学校への関心、家庭での指導 〈中学校〉不登校改善のための連携、通信制教育システムへの理解 〈高等学校〉転学における生徒情報等の連携、通信制教育システムへの理解 〈教育委員会〉通信制教育システムへの理解
(3)前年度の学校関係者評価等	【教育活動について】 通信制には様々な事情を抱えた多様な生徒が在籍しており、一斉の系統的・継続的な指導が難しい。そのため、直接会う機会は少ないけれども、より丁寧に生徒の状況を把握し、個々の生徒に応じての適切な指導、支援が必要である。 一方、学びのスタイルの自由度の高さから、新たな学びの形の可能性も大いにある。今後の ICT の積極的な活用も期待される。キャリア教育についても、進学から就職まで幅広い希望があり、個別の対応が必要であり、全日制との連携を活かし、希望実現に向けて努めていただきたい。 【学校運営について】 ・教育課程について、あらたな学習指導要領の導入に向けて、具体的に教科書、学習書、レポートなど、通信制としての様々な課題を含めて、検討を進めていく。 ・ICT の活用を個々ではなく全体として取り組みをすすめていく。	

(4) 現状と課題	教育活動	○通信制高校は「自学自習」をモットーにしているが、社会の変化とともに生徒の状況も変化しており、通信制の学びについて戸惑う生徒も少なくない。面接指導（スクーリング）をはじめ、添削指導や日常の支援体制等を研究し、生徒の学習習慣の確立と学力向上に向けた取組を続ける必要がある。 ○通信制課程には、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、さまざまな入学動機や学習歴を持つ生徒、特別な教育的支援を必要とする生徒も少なくない。 ○具体的には、過去に何らかの理由で高校を退学した者、全日制課程からの転入者、不登校経験者等、心身に課題を抱えた生徒も多いことからまずは命を大切にする心を育む姿勢を育てること、そして生徒のニーズを的確に把握し、一人ひとりの目標達成に向けた継続的な取組を続ける必要がある。
	学校運営等	通信制課程での教育を必要とする生徒が生き生きと学べるよう、中学校・高校・地域社会等への通信制課程の学習システムの広報に努める必要がある。

3　中長期的な重点目標

教育活動	・生徒一人ひとりが学ぶ喜びを実感し、安心して学校生活を送り、学習を効果的に進められるよう、教育環境の整備や教育内容・支援方法の工夫改善を進めるとともに、キャリア教育の充実に努め生徒への支援を効果的に行う。 ・生徒の実態や教育的ニーズ等を把握し、学習や生活上で困難を有する生徒が適切な指導や支援を受けることができるよう、継続的な改善活動に組織的に取り組む。
学校運営等	・転入や編入に至った経緯や状況を踏まえ、入学後のあり方や取組内容ならびに教育課程等について検討するとともに、通信制課程の学習システムの効果的な広報を進める。 ・中学校・前籍高校や関係機関との連携および情報共有に努め、よりよい生徒指導に活かしていくべく取り組んでおり、今後も引き続き緊密に行っていく。 ・ワークライフバランスを重視し、会議や研修の精選、校務内容の見直し等を行い、創意工夫を凝らした業務の効率化や働きやすい職場環境づくりに取り組む。

4　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導の充実	(1) レポート、テスト、面接についての丁寧な説明等、生徒へのサポート体制の充実 【活動指標】「学習のしおり」を手引きとしてレポート合格、テスト合格、及び面接出席の方法を生徒に理解させる。 【成果指標】「学習のしおり」を活用しての計画的な学習の継続を支援する。 (2) 学習支援の必要な生徒に対して、スクーリング以外にも適切な指導ができるような機会を設定する。 【活動指標】自学自習が困難であると思われる教科を中心としての平日の個別指導を様々な形で提供する。 【成果指標】水曜ＳＳ（self-study）、e-mail 等における個別指導回数を一月当たり 30 回以上とする。	(1))「学習のしおり」各月のページにあるカレンダーの活用が定着している。 (2) 1 月末現在個別指導の回数は、全教科で、271 回（内 e-mail での指導は 22 回）。一月当たり 27 回であったので、目標値に 3 回分届かなかった。	

生徒指導の充実	(1) 生徒会との連携による環境美化行動 【活動指標】生徒集会での啓発とともに、生徒会と協力した環境美化の取組の実施 【成果指標】より多くの生徒による清掃活動・美化活動の実施とともに生活マナーの向上 (2) 挨拶の励行 【活動指標】職員からの積極的な挨拶 【成果指標】挨拶をする生徒の増加	(1)ごみ等のポイ捨てはほとんどなく、生活マナーは向上している。 (2)対人関係が苦手な生徒も多く、柔軟な対応が必要である。	
キャリア教育の充実	(1) 進路を主体的に考える意識づくりをとおしての学習意欲喚起 【活動指標】進学ガイダンス、就職ガイダンス、進路別ガイダンス、進路だより、受験対策講座等の充実 【成果指標】生徒一人ひとりの進路意識喚起ならびに、学習意欲の向上 (2) 進路調査の実施による生徒の進路意識の把握 【活動指標】進路調査の実施と進路指導への適切な活用 【成果指標】正確な実態把握を踏まえた充実した進路指導 (3) キャリア教育の一環としての総合的な探究の時間の「進路探究コース」の取組 【活動指標】担任と「進路探究コース」担当者の連携 【成果指標】「進路探究コース」選択者の進路意識向上	(1)進学ガイダンス(5 月)、就職ガイダンス(6 月)、進路別ガイダンス(7 月)、面接ガイダンス(8 月)を実施。進路だよりは 10 号まで発行。受験対策講座受講者は 4 名(後期は、より綿密にすべく、個別対応)。 (2)全校対象(4 月)、卒業予定者(6 月、1月)に進路調査を実施。 (3)進路に応じた自主的な調べ学習をサポート	

改善課題
・学習支援の必要な生徒に対して、できるだけ登校し、個別学習するよう引き続き呼びかけるとともに、電話やメール、さらに ICT も活用しての学習活動を支援する。 ・キャリア教育の充実に努め、外部人材も活用しながら、卒業予定者を中心として進路ガイダンスや講話等への参加を促し、生徒個々の幅広い進路希望実現に努める。

（２）学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導の充実	(1) 教科指導力の向上 【活動指標】全職員によるレポート作成及び添削方法等に係る日常的かつ継続的研修の実施 【成果指標】レポート合格および、テスト合格の増加。 (2) 転入、編入後、スムーズに学習が進められるような受講計画の指導。 【活動指標】多様な科目登録形態に対応し得る時間割の編成 【成果指標】入学生の前歴および進路に応じた単位修得の実現。	(1)1 月末現在 科目登録生 100 人当たりの受験者数は A テストで 1133 人(前年)→1000 人(本年)、B テストで 180 人(前年)→230 人(本年)であることから、計画的な学習支援は不十分であったと考えられる。 (2)職業高校から高等専門学校に至るまで、様々な学校から	◎

		の入学生に対し、卒業を可能とする科目登録を実現できている。	
生徒指導の充実	(1) 転入生徒の前籍高校および適宜中学校等を訪問しての入学後の学習状況の報告 【活動指標】単位修得率等の追跡調査の実施および前籍高校等の訪問 【成果指標】前籍高校や中学校の通信制の学びについての理解の深化および生徒指導の更なる充実 (2) 校内巡視の充実による授業規律の確保および環境美化をとおしての学習環境整備 【活動指標】毎時間及び朝夕の校舎内外の巡視の継続 【成果指標】落ち着いた学習環境と、美化の徹底 (3) 職員のカウンセリング能力等の向上による生徒指導の充実 【活動指標】生徒理解に資する研修会の実施、教育相談だよりの充実 【成果指標】全職員の連携による教育相談的な学校風土の醸成、生徒および保護者の教育相談への理解の深化	(1)学校説明会等を通じて、通信制の学びについて説明をしている。また、学校からの問い合わせ等についても対応している。 (2)スクーリング時は毎時間見回りを行い、落ち着いた学習環境を維持できている。 (3)生徒一人ひとりに対応した生徒指導を行うとともに、全職員で生徒に関する情報の共有を行っている。	
キャリア教育の充実	(1) 担任と進路担当の連携による、生徒一人ひとりに応じた進路希望の実現 【活動指標】担任と進路担当との情報共有の強化 【成果指標】進路希望未定の生徒の減少	(1)進路指導委員会、担任会、職員会議、進路だより、進路希望アンケート等をとおして、生徒一人ひとりの進路希望状況の情報共有をはかり、個々に対応した進路指導を行った。	
情報発信による保護者等との連携	(1) 機関誌「松高通信」の活用をとおしての保護者との協力関係の構築 【活動指標】「松高通信」の年３回発行 【成果指標】「松高通信」をとおしての保護者との双方向性の向上	(1)年3回「松高通信」を発行し、教育活動の報告や夏の相談会等の様子を掲載し、情報発信を行った。	

働きやすい職場環境づくり	（1） ワークライフバランスを重視した業務の効率化と働きやすい職場環境づくり 【活動指標】 ・週３日以上を定時退校とする。 ・工夫による会議の時間短縮をはかり、職員会議をはじめ各種会議の 90%を１時間以内に終了する。 【成果指標】 ・１人あたり月平均時間外労働時間　10 時間以下 ・休暇取得日数を年間１日増加する。 ・年間 360 時間を超える時間外労働者数　0 人 ・月 45 時間を超える時間外労働者を作らない。	(1) ・定時退校日は設定していないが、全員が週3日以上は定時に退校できている。 ・会議は1時間以内で終了できている。 ・時間外労働はほぼない。	

改善課題
・通信制の学びについて十分な理解がないままに入学し、単位の修得が進まない生徒もおり、中学校や他高校、関係機関との連携を深め、通信制の学習活動について理解を深めていく必要がある。 ・生徒の多様なニーズに対応し、４年制大学進学から就職まで、一人ひとりの進路実現に向けて、個別に支援していく必要がある。 ・学習支援における ICT の効果的な活用等、今後の通信制のあり方について、研究を進めていく必要がある。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	通信制には様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が在籍している。特に、不登校生徒は県内でも増加しており、丁寧に一人ひとりの生徒の状況を把握し、個々の生徒に応じた適切な指導、支援が必要である。 また、通信制教育の学習スタイルの自由度の高さから、新たな学びの可能性も大いにある。今後の ICT の積極的な活用等、今後の新たな通信制のあり方について研究を進めていくことが期待される。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・学習支援の必要な生徒に対して、できるだけ登校し、個別学習するよう引き続き呼びかけるとともに、電話やメール、ICT を活用して学習活動を支援する。 ・キャリア教育の充実に努め、外部人材も活用しながら、卒業予定者を中心として進路ガイダンスや講話等への参加を促し、生徒一人ひとりの進路希望実現に努める。
学校運営についての改善策	・単位修得に向けた学習支援の方策など、指導方法のあり方について検討していくとともに、生徒一人ひとりの実態に応じて、伴走して支援を行う指導体制のあり方についても検討していく。 ・レポートの添削等、学習支援における ICT の効果的活用について研究を進めていく。 ・中学校および前籍高校や関係機関との連携協力体制を構築・深化させ、個々の生徒の情報共有をはかるとともに、通信制教育についての理解を広め、よりよい生徒指導、学習支援を行えるよう努める。